

塩江地区の紹介



沿革

網野町塩江(しおえ)地区は地図にありますように日本海直近の谷間にある集落です。昭和 25 年までは網野町磯地区を含め浜詰村(地図の青枠内)でありました。ご覧のように海の村であることがうかがわれます。塩江地区は浜詰地区を北東に走って小高い峠を越した海を眼下に覗く谷間に位置する集落です。家と家が重なるようにして建ち混みいかにもどこの海岸集落でも見受けられる、絵になる風景です。昔から、耕地と呼べるようなところは少なく、もっぱら産業は漁業となっていました。浜詰地区にも海はあるのですが浜詰漁協の拠点(事務所)はこの塩江地区にあります。そしてもちろん丹後ですので織物業は過去より盛んで機業と漁業の共存体制で集落の経済を保ってきました。

その昔集落に大火が発生したおりに村を離村された方が多くあり、漁業をする者は町内の浅茂川地区へ織物を営む者は浜詰へと移住をされたと云います。

五色浜

隣の浜詰地区には、海水浴場が整備され観光客で賑わいますが、塩江地区においてはそのような有用な海水浴場がなく、岩場の海岸にとどまっています。伝説が残る五色浜という場所が集落の東方にあります。とても浜と呼べるところではないそうです。

その昔、海遊びをしていた遊人がその海岸できれいな「五色の石」に見惚れて、思わず口にしていっつかの石を我が家に持ち帰ったといひます。その夜から大変な腹痛に襲われ、辛苦の果てに遊人はその口から吐き出した「五色の石」共々丁寧に拾われた五色浜に戻ったという。その日から遊人の腹痛は治癒し回復を見たと言う話が残っています。

また、この「五色浜」の呼び名の起こりには伝説が

あります。古い世に、時の皇后様が仏像の飾りを探し求めていた時、丹後の守の松平保昌は、塩江のこの浜にて光沢のある美しい石を拾い皇后様に奉ったといひ、皇后様たいそうに喜びこの浜を御志起浜(ごしきはま)と名付けたと云います。この名前が世間でいう「五色浜」という呼び名に変わったものであると伝えられています。



塩江 初午祭り

町内の他地区の祭りが秋に多いのですが塩江では春に初午祭^{はつままさい}として毎年3月第二日曜日にその誕生に謎が残る稲荷神社で行われています。大変高いところに神社があり、神輿を担いで石段を上がる青年たちの光景が勇ましく映って見ものであるのだが、近年はやはり担ぎ手不足であり大変危険を伴うということで神輿巡行は行われていません



雄叫びを上げて！
寒風の海に青年が走る！

★松本区長さんのコメント

稲荷神社の写真にあります神輿の巡行は数年前より諸般の事情で行っておりませんが、当塩江地区にはきれいな海岸道路があります。磯地区につながるジオの魅力ある岩の風景、そして七竜峠の山々から眺める絶妙の景勝ポイントなどこれらを活かす知恵と資源の提供を期待する思いです。